



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 26 年度 第 4 号
平成 26 年 7 月 1 日 (火) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

鈍感力を鍛える

校長 やました 山下 せいじ 誠二

6月28日の土曜公開授業には、小学校の保護者や児童も含め、大勢の方にご来校いただき、ありがとうございました。また、午後に開催いたしました「保健・安全フェスタ」には、原田PTA会長、高木宮原教育振興会長、教育委員会からは、渋谷主任指導主事、汐満指導主事、また、関係小学校の校長先生や教頭先生をはじめ、小学生、そして保護者を含め、総勢200名以上が参加して盛会のうちに終了することができました。この催しは、小・中学校の連携はもちろんです。宮原地域が少しでも「安心・安全」な街としての意識が高まればとの願いから生まれました。今年、「自転車のシミュレーター」「応急手当入門コース」「ヘルシースイーツづくり」「ダンス HipHop」「三角巾の使い方」「体の不思議な仕組みを知ろう」「アスリートのためのセルフケア」の7講座を実施いたしました。各講座とも大変好評でした。来年度も引き続き、開催したいと考えています。ご意見やご要望等がありましたら、ぜひお知らせください。

さて、サッカーワールドカップでは、残念ながら日本代表は、決勝トーナメントに進むことができませんでした。世界の中で戦うということは、それだけで大変なことであり、経験したことがない我々にはわからないプレッシャーは相当なものだったのではないかと思います。物事に対して「緊張したことがない」という人もたまにいます。心の強さを「鈍感力」と表現する場合があります。「鈍感」という表現は、一般的にはマイナスにみられる意味合いがありますが、スポーツの世界では、「鈍感」の方が、一つのものに集中でき、良い結果を招くこともあるとも言われています。以前、小泉元首相が、渡辺淳一さんの本『鈍感力』から、「目先のことに鈍感になれ」「鈍感力が大事だ」と言い、「鈍感力」という言葉が話題になりました。その本には、「鈍感なのは生きていくうえで、強い力になる」「ひりひりと傷つき易い、鋭く敏感なものより、たいいていことではへこたれない、鈍く逞しいものこそ、現代を生き抜く力であり、知恵でもある」と書かれています。また、「過剰反応はよくない」とも書いてあります。ちょっとぐらい嫌なことがあっても、「こういうこともある。まあいいか」と受け流したほうが、次のことに進めるということだと思います。日々、生活していると緊張する場面は何度でも訪れます。その時に、焦れば焦るほど結果が伴わなかったという経験はだれにでもあります。小さなことに、いちいち気分を悪くして、嫌な時間を過ごすよりも、その分の時間とパワーを、次どうすればよくなるかということを考える時間に使った方が、自分を成長させることになると思います。

今回のワールドカップは、小さなことではありませんが、日本代表の選手たちは、コロンビア戦の翌日、山口 蛍選手の声掛けで、次のロシア大会に向けて始動しました。4年後、「積極的な鈍感力」を身につけた日本代表のさらなる飛躍を陰ながら期待します。